

# 〔明和病院 循環器内科〕

## 研修の特徴と内容

【特徴】循環器内科の研修では的確な病歴聴取と病態の把握を重視する。心エコー（携帯型心エコー）、心臓CT、心臓MRI検査、心臓カテーテル検査などの画像診断を用いて病態の徹底的な把握をめざす。指導医の元に以下の内容を中心に理解と実践を図る。

## 研修目標

### ① 一般目標（GIO）

循環器病の診断と治療を適切に行い、心筋梗塞、急性心不全、不整脈等の救急疾患に円滑に対応するための幅広い診療能力を修得する。

### ② 行動目標（SBO）

1. 病歴の聴取、身体診察を的確に行うことができる。（技能）
2. 救急患者の重症度と緊急度が判断できる。（解釈）
3. 心電図所見を適格に把握することができる（技能、解釈）
4. 携帯型心エコーを用いて自らの手で心疾患の病態を把握できる
5. 心臓カテーテル検査（右心、冠動脈造影）の意義を理解し、施工することができる（解釈、技能）
6. 病棟、ER外来などでの心電図モニターを適格に理解し適切な検査、治療法が選択することができる（解釈、問題解決）

### ③ 研修内容（方略）（LS）

#### LS1：On the job training（OJT）

- (1) 1年次はチームの一員として、指導医、上級医のもと診療に参加する。内科外来の予診係として病歴を聴取し、内科一般の外来診療能力を養う
- (2) 2年次はチームの上級医として診療に参加し1年次研修医を指導する
- (3) 病棟回診、内科合同カンファレンスにおいてプレゼンテーションを行い、短時間で症例を適切に提示する能力を養う

#### LS2：勉強会・カンファレンス

- (1) 月曜抄読会 日常臨床に即した抄読会
- (2) 症例検討会 病棟回診前の症例検討
- (3) 金曜病棟会 金曜夕方に病棟ナースとともに勉強会を行う

#### LS3：症例発表

研修期間の第6～7週目の医局会でパワーポイントを用いて受け持ち患者の症例報告を行う。希望者は日本内科学会や日本循環器学会の地方会において症例報告を行う

## 習得すべき基本的手技

- (1) エコーガイド下中心静脈路確保（内頸静脈、大腿静脈、鎖骨下静脈など）
- (2) 人工呼吸器管理（NPPVを含む）気管内挿管、抜管
- (3) 電氣的除細動
- (4) 一時ペーシング（経皮的、経静脈的）
- (5) 大動脈バルーンポンピング法
- (6) 冠動脈造影（手首、上腕、大腿部アプローチ）
- (7) 右心カテーテル検査
- (8) トレッドミル運動負荷テスト
- (9) 下大静脈フィルター留置

## 経験すべき症例

- (1) 急性心筋梗塞
- (2) 不安定狭心症
- (3) 労作性狭心症
- (4) 心不全（収縮不全、拡張不全）
- (5) 弁膜症（大動脈弁狭窄症、僧帽弁逆流症）
- (6) 大動脈瘤
- (7) 閉塞性動脈硬化症
- (8) 深部静脈血栓症
- (9) 頻脈性不整脈
- (10) 除脈性不整脈
- (11) 感染性心内膜炎

## **教育に関する行事**

月曜日 18時 冠動脈 CT 読影会  
火曜日 18時 内科合同症例検討会  
          19時 心エコー検査読影会  
木曜日 16時 病棟回診

### <研修評価 (EV) >

- (1) 自己評価－研修医手帳へ症例記入し、EPOC を入力する
- (2) 指導医による評価－研修医手帳の記入状況、EPOC への入力状況、レポートの提出を用いて評価を行う

### **指導医等**

部長 中尾 伸二

### **研修実施責任者**

部長 中尾 伸二

# 〔明和病院 外科〕

## 研修の特徴と内容

### 【特徴】

外科は、業務上身体的・精神的荷重が大きく、かつ広範囲の医学的知識を要求され修練に時間を要するため、敬遠されがちであった。しかし、重症の患者が十分な説明と同意の下、外科治療を行うことにより心身ともに劇的に回復していく過程を経験することで、臨床医としての達成感・患者との一体感が実現でき、その経験は大きな自信となる。当院外科は手術件数も年間約1,000件と多く、癌根治手術や腹腔鏡手術など多くの術式を経験できるばかりでなく、化学療法や緩和ケアも積極的に行っている。日本外科学会・日本消化器外科学会・日本消化器病学会・日本肝臓学会・日本がん治療認定医機構・日本肝胆膵外科学会・日本大腸肛門病学会など各種認定研修施設であり、指導体制は整備されている。

## 研修目標

### ①一般目標（GIO）

臨床研修の主目的であるプライマリケアの履修に不可欠な外科的救急疾患の選別能力や一般外科的な基本知識・診療技術を習得する。また、将来消化器外科あるいは乳腺・内分泌外科の専門医を目指す場合に必要な診断・治療の基礎および手術手技の基本、外科専門医としての基本姿勢を習得する。

### ②行動目標（SBO）

#### (1) 第一目標

1. 一般外科疾患に必要な問診を実施し、理学的所見がとれる
2. 手術療法、外科的治療の説明と同意において十分なコミュニケーションと倫理的配慮が行える
3. 外科救急疾患の診断と初療を実施できる
4. 外来小手術疾患の診断・治療を実施できる
5. 消毒、院内感染予防について理解し実践できる
6. 栄養管理（末梢・中心静脈栄養、経管栄養）の基本を理解し実施できる
7. 周術期患者や重症患者の全身管理（呼吸・循環）の基本を理解し実施できる
8. 外科的感染症の基本知識を持ち、病態に応じた抗生剤の使い分けができる
9. 医療事故防止に必要な事項（輸血、輸液、注射、処方など）を理解し実践できる

#### (2) 第二目標

1. 悪性疾患の告知をめぐる諸問題への配慮が出来る
2. 消化器・肝胆膵疾患の診断・治療の基本を理解し実施できる
3. 乳腺・内分泌疾患の診断・治療の基本を理解し実施できる
4. 抗癌剤治療の基本を理解し実施できる

### ③研修内容（方略）（LS）

- (1) 入院患者の主治医として指導医、上級医とともに診療に参加する
- (2) 新入院患者、検討症例のプレゼンテーションを行い診断・治療方針の検討を行う
- (3) 与えられたテーマ（症例）について、症例報告形式でカンファレンスでプレゼンテーションし、検討、評価を行う。

## 第一目標達成のために

- (1) 病歴・理学的所見をとる
- (2) 症状から疾患を絞り込み、臨床検査を立案
- (3) 検尿、血液生化学検査、微生物学的検査を解釈
- (4) 外来小手術手技の介助
- (5) 手術室、病棟における手洗い、消毒、ガーゼ交換
- (6) 病棟回診につく
- (7) 手術前の説明と同意に同席する

## 第二目標達成のために

- (1) 消化管内視鏡、超音波検査、消化管透視の方法、読影
- (2) 肝胆膵臓器の画像診断 (US, CT, MRI, 血管造影、DIC, ERCP, PTC, MRCP) (3) 触診、Mammography、超音波による乳腺疾患の診断
- (4) 手術リスク、適応の判断
- (5) 全身麻酔手術の助手を務める
- (6) 術後管理の基本を実地研修
- (7) 緩和ケアにおける癌性疼痛管理

## 習得すべき基本的手技

- (1) 末梢・中心静脈ルートの取りかた
- (2) 静脈血・動脈血採血
- (3) 胃チューブの挿入
- (4) 膀胱バルーン挿入
- (5) 局所麻酔法
- (6) 創処置
- (7) 皮膚縫合
- (8) 開腹、閉腹
- (9) 胸腔、腹腔穿刺

## 専門的手技の介助

- (1) SB チューブの留置
- (2) 食道静脈瘤 EVL・EIS
- (3) 経皮経肝胆管造影
- (4) 内視鏡的経鼻胆管ドレナージ
- (5) 気管切開
- (6) 腹腔鏡下手術

## 経験すべき疾患・病態

- (1) ヘルニア、虫垂炎、痔
- (2) 消化管悪性腫瘍
- (3) 肝胆膵悪性疾患
- (4) 胆石、胆嚢炎、胆嚢ポリープ
- (5) 急性腹症、腹膜炎
- (6) 乳腺線維腺腫、乳癌
- (7) DIC
- (8) 敗血症
- (9) 腹水
- (10) 癌末期

## **教育に関する行事**

### <週間スケジュール>

月曜日	午前	8時15分～9時00分	症例検討会
	午後	18時	消化器合同検討会
火曜日	午前		手術研修
	午後		手術研修
水曜日	午前	8時15分～9時00分	症例検討会
	午後	17時30分～	術前検討会
木曜日	午前		手術研修
	午後		手術研修
金曜日	午前	8時15分～9時00分	症例検討会・抄読会・合併症検討会

### <研修評価 (EV) >

- (1) 自己評価

臨床研修手帳に経験症例を記入し、EPOC を入力する。経験必須症例 (症候) に関するレポートを記載し提出する。

- (2) 指導医による評価

EPOC への入力状況、レポートの提出状況・内容に診療チームでの勤務状況を加味して評価を行う。担当指導医は EPOC を入力する。

(3) 研修内容の評価

研修医による外科研修内容（研修環境）の評価、指導医評価を EPOC に入力する。

## 指導医等

院長 山中 若樹（消化器全般、肝胆膵領域、腹腔鏡下手術）  
副院長兼消化器担当部長 柳 秀憲（消化器全般、下部消化管）  
主任部長 相原 司（消化器全般、肝胆膵、肛門）  
部長 木村 文彦（消化器全般、大腸、直腸）  
部長 岸本 昌浩（乳腺・内分泌外科）  
部長 生田 真一（消化器全般）  
部長 奥田 昌也（呼吸器外科）  
部長 仲本 嘉彦（内視鏡外科、消化器全般）  
医長 松之木 愛香（乳腺・内分泌外科）  
医長 岡本 亮（消化器全般）  
医員 中島 隆善（消化器全般）  
医員 別府 直仁（消化器全般、下部消化管）  
医員 浜野 郁美（消化器全般）  
医員 一瀬 規子（消化器全般）

## 研修実施責任者

副院長兼消化器担当部長、研修プログラム責任者 柳 秀憲

# 〔明和病院 産婦人科〕

## 研修の特徴と内容

明和病院は、阪神間の恵まれた立地条件の下に院内の連携に力を注いでおり、各科の指導医も熱心に独自の研修プログラムのレベルアップを図っている。一方、もっとも近隣の総合病院である兵庫医科大学とも良好な病病連携を形成し、多様な研修の選択肢を提供できる。産婦人科学の知識は、人口の半数を占める女性の診療を行う上で診療科を問わず重要で、特有の病態を把握しておくことが他領域の疾病に罹患した女性を診療する上でも必要不可欠である。当科では、地域に貢献できる産婦人科を目指し、女性に寄り添うサポータ意識の育成とチーム医療を重視している。産科疾患、婦人科腫瘍、不妊症、性関連感染症、更年期障害、骨盤臓器脱疾患、手術（腹腔鏡下手術含む）、婦人科健診がバランスよく研修できる体制を組んでいる。

また、小児科との連携を密にし、周産期に関連するイベント（分娩と新生児）を重点的に研修指導する。主な研修内容は正常・異常分娩と正常新生児管理とする。

## 研修目標

### I. 研修一般目標

- (1) 婦人科疾患の診断・治療（保存的、手術療法、化学療法）のストラテジー構築と実践を研修
- (2) 妊産婦のプライマリケアを研修
- (3) 新生児の医療に必要な基本的知識・技術を小児科の指導の下に研修
- (4) 不妊症(体外受精を含む)治療の実際について研修
- (5) 性関連感染症について研修
- (6) 更年期について研修
- (7) 骨盤臓器脱について研修
- (8) 安全管理、感染症対策、個人情報の取り扱いについて体得する

### II. 研修実践目標

#### A) 経験すべき診察法・検査・手技

##### (1) 基本的産婦人科診察能力

- ①問診および病歴の記載
- ②産婦人科診察方法

##### (2) 基本的産婦人科臨床検査

- ①婦人科内分泌検査
- ②不妊検査
- ③妊娠の診断
- ④感染症の検査
- ⑤細胞診・病理組織検査
- ⑥内視鏡検査（腹腔鏡〔単孔式を含む〕・子宮鏡）
- ⑦超音波検査（経膈・経腹・3D/4D 超音波）
- ⑧妊娠・分娩時の胎児評価法（胎児心拍数モニタリング・胎児心臓エコーなど）
- ⑨放射線学的検査（MR I・CT・子宮卵管造影・マンモグラフィ・骨塩量測定）

##### (3) 基本的治療法

薬物の作用、副作用、相互作用について理解する。ホルモン剤の使用法（HRT、ERT、ピル、緊急避妊ピル）。更年期障害に対する漢方処方を研修。妊産褥婦および新生児に対する薬剤の使用時の問題、制限、特に妊娠・授乳期の薬剤使用による胎児・新生児への影響について充分理解する。

- ①処方箋の発行
- ②注射の施行
- ③副作用の評価ならびに発生時の対応

#### B) 経験すべき病態・疾患

患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断療を的確に行ない、特に超緊急事態であるか否かを判断する能力と緊急事態に対する対応を習得することが重要である。

##### (1) 産科関係

①妊娠・分娩・産褥ならびに新生児の生理の理解 ②妊娠の検査・診断と妊娠初期異常（子宮外妊娠・胎状奇胎など）の管理 ③出生前診断についての理解 ④正常妊娠の外来管理 ⑤正常分娩・産褥の管理 ⑥正常新生児の管理 ⑦骨盤位の管理（外回転術を含む） ⑧帝王切開術の経験 ⑨流・早産の管理 ⑩妊娠中毒症の管理 ⑪産科出血に対する応急処置法の理解 ⑫和痛分娩の管理

## (2) 婦人科関係

①骨盤内の解剖の理解 ②視床下部・下垂体・卵巢系の内分泌調節系の理解 ③婦人科良性腫瘍の診断ならびに治療計画の立案 ④婦人科良性腫瘍の手術への助手としての参加。膣式手術、腹腔鏡下手術、腹式手術、子宮鏡下手術（単孔式腹腔鏡下手術を含む）。 ⑤婦人科悪性腫瘍の早期診断法の理解 ⑥婦人科悪性腫瘍の治療計画の立案と実践。手術と化学療法 ⑦不妊症・内分泌疾患患者の検査と治療計画の立案、体外受精と顕微授精を含む ⑧性関連感染症の検査・診断・治療計画の立案と実践 ⑨更年期障害の検査・診断・治療計画の立案と実践 ⑩骨粗鬆症、高脂血症等の学際疾患についての理解と診断・治療 ⑪骨盤臓器脱について検査・診断・治療計画の立案。膣式手術 ⑫子宮頸癌ワクチン接種についての理解

## (3) その他

①産婦人科診察に関わる倫理的問題の理解（出生前診断、不妊治療） ②母体保護法関連法規の理解 ③家族計画の理解 ④感染症対策について生涯学習 ⑤安全管理、感染症対策、個人情報取り扱いについて体得する ⑥妊婦健診における産科医と助産師外来との共同作業について理解する

## 教育に関する行事

毎朝 8:15～8:45 臨床カンファレンス

月 9:00～：病棟回診、外来 午後：手術 17:00～ 術後カンファレンス

火 9:00～：病棟回診、外来 午後：外来検査（子宮鏡、子宮卵管造影）

16:00～産婦人科カンファレンス

水 9:00～：病棟回診、外来 午後：更年期・骨盤臓器脱外来、不妊外来、外来検査

第2水曜日 16:00からは小児科・産婦人科合同連絡会

木 9:00～：病棟回診、外来 午後：手術

17時から術後カンファレンス

金 9:00～：病棟回診、外来 午後：コルポスコピー外来、不妊外来

## 指導医等

部長 森 龍雄

医員 衣田 隆俊

## 研修実施責任者

部長 森 龍雄

# 〔明和病院 病理診断科〕

## 研修の特徴と内容

### 【特徴】

病理診断科では、臨床各科から提出される病理組織材料・細胞材料の診断を行い、外科系各科からの術中迅速診断に対応し、また臨床各科から依頼される病理解剖を行っている。このため病理診断科の研修では、ほとんどすべての診療科にまたがった幅広い疾患について経験できうという特徴がある。各診療現場において病理診断がどのような位置づけにあり、どのように診療に貢献しているのかを目の当たりにできる。これは、病理医を志すものだけでなく、将来他科を目指すものにとっても有意義なものと考えられる。

### 【内容】

#### ① 一般目標

各種病理診断を診断や治療に活用できるように、生検・手術材料の組織診断、細胞診、術中迅速診断、病理解剖という主要な病理業務の内容・手技を理解し、実際に病理診断業務に参加することで、診療現場における病理診断の位置づけや重要性について理解する。

#### ② 行動目標

1. 病理組織標本の作成手順を説明できる。
2. 細胞診標本の作成手順が説明できる。
3. 術中迅速病理組織診断標本の作成手順が説明できる。
4. 手術材料の肉眼所見の取得を適切に実施できる。
5. 手術材料の切り出しを適切に実施できる。
6. 病理組織診断書を適切に作成することができる。
7. 穿刺吸引細胞診の現場で標本作成ができる。
8. 細胞診検査報告書を適切に作成することができる。
9. 病理解剖を行うにあたり必要な書類について説明ができる。
10. 病理解剖を行うにあたり遺体および遺族に対する配慮ができる。
11. 病理解剖の基本的な手技を実施できる。
12. 病理解剖報告書を適切に作成することができる。

#### ③ 研修内容

1. 病理組織標本・細胞診標本・術中迅速病理組織診断標本の作成手順について臨床検査技師が実際に行っている作業を見学し、説明を受ける。
2. 上級医の手術材料の切り出し作業に同席し、肉眼所見の取得や実際の手術材料の切り出し方について説明を受け、十分に理解できた段階でその指導のもとに肉眼所見の取得や実際の手術材料の切り出しを行う。
3. 上級医から基本的な病理組織診断の考え方・手法について説明を受けると共に、実際に自らも病理組織診断書を作成して上級医から指導を受け、さらに指導医からそのチェックを受ける。
4. 穿刺吸引細胞診の現場に出向き、病変に則した適当な標本作成の指導を受ける。
5. 病理解剖を行うための準備について上級医から説明を受け、実際に病理解剖の実施に立ち

会って基本的な手技を見学し、自らも病理解剖を実施する。標本の切り出しを上級医と一緒にを行い、病理解剖報告書を作成する。上級医・指導医から内容に関して指導を受け、その指導のもとに剖検症例の臨床病理検討会において病理所見について説明する。

#### ④ 教育に関する行事

月 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖  
消化器カンファレンス

火 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖  
偶数月第2週：乳腺カンファレンス、奇数月第2週：病理解剖症例検討会（CPC）

水 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖

木 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖、  
抄読会

金 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖

土 指導医による組織診・細胞診材料の診断指導、手術材料の切り出し、病理解剖

#### ⑤ 研修評価

1. 自己評価
2. 指導医による評価
3. 臨床検査技師・細胞検査士からの評価
4. 研修内容の評価

### 指導医等

部長：覚野 綾子

医員：梶本 仙子

### 研修実施責任者

部長：覚野 綾子